

女性政策声明草案

第4版

及び

性差別廃絶にむけた行動計画の 草案

再評価カウンセリングの会

志堅原 郁子 訳

目次

女性政策声明草案 第4版

5

総論	5
性差別主義的抑圧の構造	8
内面化した抑圧と相互抑圧の具体例	10
現代の性差別	12
性の自由をめぐる混乱	16
全女性が真の女性であり、全女性が女性性である自分自身を肯定するに値する	16
グローバル資本主義	17
すべての人とすべての女性を解放する	19

性差別廃絶にむけた行動計画の草案 25

主な性差別の制度	
経済と仕事	26
生殖をとりまく制度	27
子育て	31
美容「産業」	33
結婚	36
性「産業」	38
主な性差別の「構造」	
内面化された抑圧	39
女性に対する暴力	41
性行動（性交渉）と性被害	43
そのほかの制度	45

女性政策声明草案

第4版

総論

団結声明

女性として、私たちには人種、民族、宗教、階級、国籍、年齢、性的志向、健康状態などによるいかなる境界をも乗り越える共通の絆があります。相違点にも増してより多くの共通点があります。女性が女性として女性の抑圧を現段階で認識しているか否かにかかわらず、この共通の絆を基点に、私たち姉妹、つまり全女性の世界規模での解放をめざし取りくみます。全女性の解放という目標に向かって、被抑圧者集団に属するすべての人たちとの結びつきを確認します。

すべての抑圧の根本的原因

搾取と抑圧の根底にあるものは経済であり、人が属する集団間の差異によるものではありません。再評価カウンセリングが捉える抑圧とは、ある集団に対する他集団からの組織的不当な扱いで、しかも社会によって強化されたものです。抑圧は、ある集団がみずからの物質的利益のために他集団を隷属させるという、あからさまな利権目的から派生しました。奴隷社会から封建社会、そして資本主義社会へと社会は進展してきました。今日、私たちは資本主義が席卷する社会で生きています。女性の抑圧はほとんどすべての抑圧的社会に欠くことなく存在し続け、現在はグローバル資本主義¹に欠かせないものとなっています。

いかにして女性は抑圧されるようになったか

所有財産と相続権が重要なものになるにつれ、男性による財産管理と「彼の」子どもにその財産を継承させたいという男性の願望が、女性に対する

¹ 訳注：グローバル資本主義（global capitalism） 国家間の壁をこえて市場原理経済に基づく自由化が世界規模で進む、資本主義のグローバル化のこと

支配の基盤を成してきました。子を産むという女性の生物学的縛りとそれから派生する役割が、女性に対する抑圧への口実になりました。これは理由ではありません。女性であるという生来の理由で女性に対する抑圧を正当化しえるものはいっさいなく、またこれまでもけっしてなかったのです。

妊娠・出産や母親としての役割は、あらゆる文化と人間という種の存続に不可欠なものであり続けてきました。伝統や価値観を伝え、身体および情緒的な発達を育むという重要な役割はたいいてい、女性に任されてきました。昔、ほとんどの女性が獵師や戦士の役割を担わなかったのは正当な理由からです。ある集団が多くの男性を失ったとしても、子どもを妊娠・出産する女性がいるかぎり集団の存続が可能でした。こうして女性の大集団は、男性の小集団と一緒に人口を増やしえたのです。階級社会では、女性の仕事、とくに出産や育児は無償労働で、これが女性搾取の土台となりました。

女性の抑圧

女性は、自分の身体の管理権と経済力および政治力行使の権利を組織的に奪われてきました。たとえば知性がたりないとか依存的であるとして、人間以下に見なされ、扱われてきました。私たちは保護され讃えられるべき存在として「理想化」され、そのもう一方では打ちのめされる奴隷や召使いとして見なされてきたのです。女性は高い所にすえられるか、もしくは地面に打ちつけられるかのどちらかでした。しかしいずれの場合も、つねに男性の所有物であったことに変わりはありません。私たちは強さや知性や力において、男性と対等な者として見なされていません。男性による優位性は今日も続き、ひどく残虐な行為（性的搾取や身体的暴力）から巧みな操縦（わずかでも良い扱いを受けるためには、受けいられる着こなしや「適切な」態度をとらなければならない、と女性に感じさせるような事柄）まで多岐にわたります。

階級社会はあらゆる不平等を促進します。出産や育児という無償労働を女性が担うよう期待されることを含めて、性差別に基づく経済的不平等はほぼすべての階級社会で存在してきました。性差別の一般的特徴はすべての男性優位社会で顕著ですが、階級社会の変化にともない変わってきている性差別の形態があります。今日、世界の女性の大多数は貧しい環境で育ちかつ生涯を通じて貧しいままです。成人女性のほとんどは二つの仕事を抱えています。「北」の経済社会²においては、女性は家庭で無償労働を行い、そして時間給職場では男性より低賃金で評価の低い仕事に従事しています。貧困にあえぐ成人の大多数が女性です。女性は世界人口の51%を占め、その労働時間は全世界の労働時間の3分の2を占めます。女性は世界総収入の10%を受けとり、所有する資産は世界資産の1%に満たないのです。

女性性の抑圧の制度・機構

すべての階級社会がそうだとはいわないまでも、そのほとんどで（広義の）制度・機構が女性を抑圧しています。上手く組織化された制度・機構の一部は、とくに女性を標的にしています。こうした制度・機構には性「産業」や美容「産業」、また結婚や生殖、子育て、女性の仕事にかかわる機関があり、これらは肯定的側面ももちえますが、ほとんどの場合、性差別を浸透させる役割があります。ほかに「精神医療」制度や教育制度、政治制度、情報・報道媒体も性差別主義の抑圧にあふれています。

くわえて、ある種の「性差別の構造」が存在します。このなかには、女性に対する暴力や性被害、男性による性差別主義的扱い、薬剤処方や向精神薬処方の名目で行われる社会の管理（男性と比べ、女性に対してより頻繁に薬が処方されます）、内面化した抑圧などがあります。

² 「北」の経済社会とは、高度に産業化が進んだ国々を指す。

性差別主義的抑圧の構造

性差別主義的抑圧の構造は女性の抑圧を強化し、維持し、そして浸透させます。この構造を排除することは、抑圧と内面化した抑圧から女性を解放する行動の一貫です。次に重要な構造を示します。

暴力

暴力は女性にとって特別な関心事です。暴力はしばしば性的および精神的虐待を伴います。女性は父親から、母親から、叔父から、兄弟から、姉妹から、夫から、愛する人から、そして「友人」から殴られます。暴力が実際に行われていないときでも、暴力の脅威がその場に存在する場合があります。ほとんどすべての女性が男性によって身体的に虐待されてきました。(男性は、かつて犠牲者であった自分に向けられた行為をそのまま実行している、という点を覚えておく必要があります。)

不当評価

不当な評価は抑圧のもうひとつの道具です。意図的に、女性の思考力や思考の表現能力は評価されません。女性はこうした能力を高めることを期待されず、身体的にも精神的にも男性より劣っていると教えられます。あまりにも不当に低い評価を受け続けてきたために、私たちの多くは、私たちが知っているのだと確信することや、知っていることを言葉で表現することを難しく感じます。自分の考えを説明できない、と感じてしまうのかもしれない。

男性による性差別的扱い

私たちの社会は男性に性差別主義の傷³を植えています。こうした傷は女性の価値や能力と力にかんして女性に対する誤った態度を生みだします。女性を見下したり、はずかしめたり、対等以下あるいは知的に劣った

³ 訳注：傷 (distresses) 過去の傷ついた感情あるいはその記憶。また、それに基づいて引き起こされる言動や態度を指す。

存在として扱ったり、性の対象物にしたり、性的被害を加えたり、服従的役割に押しこめたり、軽く扱ったり、ときには殺したりなど、性差別主義の傷は微細な行為から残虐な行為までさまざまな形となって現れます。

抑圧の内面化

抑圧の標的にされてきたことによって、女性は自分自身に対してきまった形で継続的に抑圧的態度をとるようになります。性差別（そしてほかの抑圧）によってもたらされ今も継続して加えられる傷のほとんどが、この内面化した抑圧によるものです。

抑圧されたままでいると、人は不当な扱いと、まちがった情報によって、抑圧を「受けいれる」ように条件づけられます。人が抑圧を受けいれてしまうのは犠牲者であるその人のせいではありません。意図的な不当評価と不当な扱いが傷の記憶を作り出すのです。その傷が継続的に強化され再刺激されることで、犠牲者を失望させ抑圧に服従する方向へと向かわせます。こうして今や抑圧への服従姿勢をも取りこんだ傷の記憶が、抑圧を存続させます。この傷の記憶は、被抑圧者集団内の集団的認知事項として社会化されるようになります。これが内面化した抑圧です。

抑圧を取りのぞくには、どの集団も抑圧の受けいれを拒絶しなければなりません。これは言うほど簡単ではありません。こうした傷の反復的行動・思考様式（パターン）⁴は深く、しかも常に強化されてきたため、人が人間の本質に立ちかえって傷を排除し再生していく過程を複雑なものにしているからです。

しかし、傷の記憶を取りのぞく方法を私たちは知っています。感情の解

⁴ 訳注：パターン（pattern） 過去の傷ついた感情またはその記憶によって引き起こされ、繰り返され、様式化した行動や考え方。以後、パターンと表記。

放（ディスチャージ）⁵は、効果があることを知っています。そのための技術も急速に獲得しています。私たちがほかの被抑圧者集団と手を取りあうこともこの混乱を一掃する助けになります。

相互抑圧

抑圧的社会によって、被抑圧者集団は互いに対立させられます。被抑圧者集団のそれぞれが抑圧によって傷つけられてきたために、他集団への抑圧に加わるように再刺激されるのです。すべての人間が、しかも抑圧者の最上層にいる人でさえ、抑圧された経験を持っています。ほかの立場では抑圧を受けなかったとしても、子ども時代は抑圧されてきました。抑圧の犠牲者が再刺激を受けると、より痛みの少ない抑圧者の役割へと移行しがちです。こうして無意識のうちに抑圧が広げられていきます。抑圧がいかにかに被抑圧者集団の間を行き来しているかが見てとれます。人は犠牲者になったり抑圧者になったりしながら、互いを抑圧し続けます。

内面化した抑圧と相互抑圧の具体例

内面化した性差別は一般に次の3つの形態で現れます。

1) 個々の女性が自分自身に対し抑圧的態度をとります。たとえば、「私は計算ができない」「私はひどい扱いを受けてもしかたがない」「私は美しくない」「私には子どもを産む以外に選択肢はない」といった態度です。女性は男性と対等であることを実感しようとして葛藤します。事実、女性は聡明で、愛らしく、創造性があり、協力的で、そして力強いのです。これに反するすべての感情あるいは状況は、私たちが過去に傷つけられてきたことによって生じたものです。自己を完全に肯定する以外のいかなる姿勢も、

⁵ 訳注：ディスチャージ（discharge） 過去の傷ついた感情とその記憶を、泣いたり、笑ったり、震えたりすることによって解放すること。また、その泣く、笑う、震えるという行為そのものを指す。以後、ディスチャージと表記。

外部から私たちに加えられる抑圧を受け入れることとなります。女性であることや、女性が思考し情報を集め世界を理解することができる力について、私たちは完全なる誇りを取りもどせます。伝統的な女性の役割への誇りを再び宣言すると同時に、この伝統的役割にかんする抑圧的で固定化した定義と闘ってきたことを誇らしく思うことができます。私たちの基本的な人間の本質と女性性を評価しようとしなない「文化規範」⁶を組織的に否定することができます。私たちは皆、**真の女性**なのです。

2) 女性がほかの女性に対し性差別を再演します。たとえば、ほかの女性を批判したり、軽く見たり、軽蔑したり、従属的役割を担うことを期待するなどします。内面化した抑圧の力の下で、女性である私たちに向けられた否定的なメッセージをほかの女性にも投げつけるのです。自己を完全に肯定するのが正しい態度であると同様に、互いを完全に肯定しあうこともまた正しいことです。私たちは自分の人生に完全なる責任をもちます。少ない資源をめぐって互いに競いあう必要はありません。私たちが資源なのです。私たち自身と女性が成しえる無類の貢献に価値を見いだすことができます。互いに愛情を注ぎあい、認めあい、そして体を寄せあうことに安心感を取りもどすことができます。美にかんして、大多数の人がもつ文化基準を捨てさり、思考し創造し愛しあう女性の力とともに、女性性ならではの美しさに大いなる喜びを感じることができるのです。

3) 女性の集団（人種や階級、性的志向、年齢、民族などによって区分された集団）は別の女性集団を抑圧します。たとえば、白人女性は人種差別と内面化した性差別のために有色女性を抑圧します。それぞれの集団から別の集団に抑圧が加えられているため、集団間に横たわる共通性を見いだすことや一つの集団に影響をもたらす問題がほかの集団にも同様の影響を及ぼすことが理解できなくなってしまうています。私たちは互いの解放に

⁶ 文化規範とは、その文化において正常と見なされているものを意味する。

むけて行動することを決意表明し、互いの異なる文化や生活様式や性の多様性を認めあうことを学ぶ必要があります。女性を分断するさまざまな形態の抑圧と闘い、人種差別、反ユダヤ主義の抑圧、年齢差別、内面化された性差別、階級制、障がい者への抑圧、男性同性愛者（ゲイ）や女性同性愛者（レズビアン）や両性愛者（バイセクシャル）や性的越境者（トランスジェンダー）や「クイアー」⁷への抑圧、そしてそのほかすべての抑圧を、私たちの行動や態度から一掃することを決断し表明します。

現代の性差別

性差別は終焉した、とする考えをメディアが広めている地域があります。しかし実際、性差別は生きており、あらゆるところで大きく影響を及ぼしています。階級社会が進展していった過去の過程でそうであったように、性差別は新しい形態に進化しています。

次に記述する現代の性差別事情のほとんどは、「北」の経済社会におけるものです。「北」の経済社会に暮らす女性は、より抑圧されている国々に暮らす女性の生活実態についてもっと多くを学ばなければなりません。西欧社会の価値基準がおよばない社会のより正確な実態を把握し、世界的規模で起こっている性差別について包括的な実像を提示することができるように、もっと多くの女性からの情報提供が必要です。

全体として、女性の生活は改善されてきました

社会と女性運動の進展にそって段階的に、女性の生活は改善されてきました。伝統的な家父長制の構造は多くの地域で崩壊してきています。歴史

⁷ 訳注：クイアー（Queer） 性的少数者であることを自認する人たち。レズビアンやゲイなど固定したカテゴリーではなく、セクシャリティそのものが多様な可能性と視野を含むとして考える「クイアー理論」（1990年代に登場）から生まれた。クイアーの原義は「変態」。

的に社会の基本的構成単位であった伝統的な男性優位の家族形態は、大きく変化しました。女性の権利の制約や女性に犠牲を強いる男性の特権は減ってきています。ほとんどの女性が家庭の外で働き、男女双方が家族を支えています。女性はより公平に教育を受けられるようになり、より多くの女性が専門職についています。女性はまた、健康、スポーツ、芸術、政治、そして一部の宗教分野で前進しました。

不平等は続いている

こうした収穫にもかかわらず、不平等はまだ続いています。女性に対する暴力は増加し、これまで以上の女性が貧しい暮らしをしています。伝統的しきたり（妊娠したら結婚するなど）が崩壊したため、子どもをもつ女性は助けを得られないことが多く、経済的に苦しんでいます。結婚制度はこれまでになく公平ですが、性差別的行動・思考様式と内面化した性差別は依然として残っています。女性は今なお家庭、職場、政治、宗教、健康医療制度、そのほかすべての主要な制度のなかで性差別と激しく格闘しています。

人びとが性差別に対峙すると、抑圧社会は性差別の実態を覆いかくそうとし、見せかけや隠しだてやごまかしという行動にでます。女性は今や男性と同等どころかより自由で力強くなっている、と若い女性は教えられます。「北」の社会では経済的「南」⁸の社会であからさまに行われている性差別を公表し、これを引きあいにして「北」の女性の生活様式をよりよいものに見せかけようとしています。

「新しい」形の性差別が出現しています。多国籍企業の世界的な広がり
と支配の拡大とともに、女性、なかでも有色女性は重労働で低賃金の仕事に就いています。女性を標的に搾取する数千億円規模の産業（ポルノ、広

⁸ 経済的「南」とは、工業化の進展が途上段階の国々を指します。

告、美容産業など）が急成長しています。

技術進化や新商品は「新たな」形の性差別を生み、抑圧的社会はこれらの新技術や新商品を「解放」だと吹聴します。たとえば、あるところで、「解放された女性」とは「性の自由」の権利をもつ女性であり、容姿を「良く」したり変えたりするためのさまざまな商品を買う権利をもつ女性です。このまちがった新しい解釈の「解放」は大企業に利益を与え、女性に拒食と過食、感情の医療対象化、音楽や情報メディア上の暴力的イメージ、セックス依存といった新たな苦しみをもたらしています。経済的「北」の一部のフェミニストは、「性の自由」にのめり込んでいます。消費文化はすべての女性の生活を蹂躪（じゅうりん）しました。性差別は「終焉」からほど遠い状況にあります。

私たちは人種差別を廃絶しなければならない

人種差別は今日の世界を大きく分断しています。人種差別がいかにすべての人を、とくに女性を分断しているかを理解しなければなりません。人種差別と女性差別の相互作用を解明し理解する必要があります。人種差別と性差別は、性差別の抑圧を浸透させる（広義の）「制度」（生殖、結婚、子育て、経済、美容産業、性産業など）のなかに一緒に織り込まれています。たとえば、美容産業は白人女性を抑圧する一方で、「白さ」を美しさの基準の一つに掲げ、有色女性を抑圧しています。人種と社会的・文化的性（ジェンダー）にかかわる傷はすべての女性に影響があります。女性解放を成しとげるために、人種差別に取り組み、完全に廃絶しなければなりません。

有色女性は性差別を終わらせる重要な役割を担う

有色女性は今日の世界で多数派です。彼女たちは人種差別と性差別という二重の抑圧と闘い、たいていは階級制度の抑圧（多くの場合、貧困も含む）とも闘っています。有色女性が女性解放を自分のものとして捉え、そ

れを達成するための闘いで中心的役割をはたすのだ、と考えることがとても重要です。これを可能にするために、女性解放運動の中心に、人種差別と性差別の両方の廃絶をすすめるべきです。

白人女性は自らを抑圧者役割から解放する

白人女性の性差別からの解放は、有色女性とのかかわりのなかで、抑圧者の役割から自己を解放できるか否かにかかっています。抑圧者としての傷をそのまま放っておくと、白人女性は有色女性と分断されたままになり、真の解放ではなく小さな改革で満足する方向に追いやられ混乱させられません。

あらゆる場で女性は抑圧されていますが、女性もまたほかの女性を抑圧し搾取しています。この現象の根幹には経済があり、そして人種問題が作用しています。白人女性は階級制度などの抑圧によって互いに競争させられ、この傷のために有色女性を抑圧します。

昔から少数の女性が抑圧の代行者としてその他大多数の女性を抑圧してきました。支配者階級あるいは所有者階級の女性は、自らも支配者階級の男性の（跡継ぎを産ませ、威信を得るための）所有物でしたが、一方でほかの女性を家庭内奴隷として利用してきました。奴隷となった女性は主人の家で家事をし、主人に仕え（性的奉仕も含む）、「男主人」の子どもの世話をし、なおかつ「女主人」の要求も満たしたのです。女性は米国の黒人奴隷制度や資本主義社会の進展過程の下で、古くは奴隷制度社会だけでなく封建制度社会のなかで、こうして分断されてきました。

今日、一般に、有色女性は古くから女性向けにしつらえられた低賃金労働に従事しています。これらの仕事のなかには、秘書の仕事や家事労働など、中産階級に属する女性や専門職の女性、裕福な女性のために働く仕事もあります。（有色女性は中産階級の仕事や専門職に就くことがあまりなく、

裕福であることもほとんどありません。しかし、いったんこれらの地位に就くことができると、彼女たちもまた現在の自分と比べ恵まれていない他の女性を抑圧する傾向にあります)

性の自由をめぐる混乱

最近、ある種の混乱が性差別に対抗する闘いをゆがめてきました。解放と自由（とくに若い女性にとって）の名の下に、歓迎されないにしてもすべての形態の性行動が是認されてきました。私たちが暮らす社会は、男女間の婚姻関係外の性行動を禁止する社会から、数世代のうちに、ほとんどあらゆる形の性行動が若い頃から正当性のあるものとして受けいられる社会へと変ぼうをとげてきました。セックスを楽しむ女性の権利など、こうした変革から派生したすばらしい副産物もあります。しかし、有害で知的でない行動が容認されています。性の「自由」は女性が自分の体と性を利用することと同義ではありません。真の解放をめざしてつながっていくために、この混乱を解消していくのが重要です。

全女性が真の女性であり、全女性が女性性である自分自身を肯定するに値する

女性の抑圧は、私たちの女性としての生活実態について誤った考えを生みだします。たとえば、女性同性愛者は、「真の女性」ではない、または唯一「解放された女性」である、という両極端の固定した見方をされます。こうした女性の生活行動に対するあやまった考えは、女性の内面化した抑圧を育てます。女性同性愛者、両性愛者、異性愛者（ヘテロセクシャル）など多様な性的志向を行動にうつすことは、ある仲間内では流行の最先端をいくつかいいものとなり、女性にあてがわれた社会的役割にかんする本当の闘いを実践する代わりに代替行動になっています。自認する性を実践するケースが増えているのは（たとえば、性転換手術）、女性が女性性と

しての自己を悪く思っているしるしです。女性性であることについて、何か不備があり限界があることだ、と考えるしまうのは、女性がこれまで継続的に受けてきた社会からの不当評価が原因です。これは現に真実ではなく、これまでも真実ではありませんでした。私たちは、私たちの女性性に完全なる誇りをもちます。女性性であることはあらゆる点で偉大なことです。これに反するあらゆる状況または感情は、女性の抑圧の傷あとであり、ディスチャージによって消しさることができます。こうした問題は、営利目的のまちがった解決策では解消されません。女性性として誇りをもち、女性としての私たちにそなわった特性をほめたたえます。

同時に、抑圧的なまでに固定化した性認識をなくすことは、すべての女性にとって重要です。女性同性愛者、あるいは女性性の固定概念に適合しない女性は、彼女たちがほかの女性たちと親密で愛情に満ちたつながりをもとうとしたり、伝統的な女性役割の枠外で行動したりするのを恐れさせる、辛らつな抑圧の標的となります。女性がもし「適切な役割」に適應しないならば、その女性は非難され、同性愛者への抑圧におびやかされます。

すべての女性が、ほかの女性と親密で愛情あふれ互いにかかわりあう関係を求めます。これは性には何の関係もありません。性的指向は、女性同性愛者に対する抑圧の口実で、理由ではありません。

全女性と全男性が人間として、知性、力、愛、そのほかすべての特性を同程度に備えています。こうした特性は社会的性差に基づくものではありません。こうした特性のすべてを手にするために、性別を変える理由は何もありません。

グローバル資本主義

グローバル資本主義は「北」と「南」の経済格差を増大させてきました。

（「北」に住む）世界人口の20%を占める最も豊かな国々の人々は、世界総収入の85%を手にし、同じ割合の資源を使っています。世界人口の20%を占める最も貧しい人々（絶対的貧困者）は、世界総収入の1.45%で何とか生きのびています。

貧困、人種差別、そして性差別には「南・北」の経済上の分断がからんでいます。世界の貧しい人々のほとんどは女性であり、子どもであり、有色人種です。すべての女性が経済および政治的不平等や女性に対する暴力など、さまざまな性差別と闘わなければなりません。しかし、「南」の女性は「北」の女性と違う形で苦しみます。多国籍企業による経済支配は女性の闘いのすべてを形づくっています。

資本主義の国際化は労働の再編につながりました。安価な労働力として女性を使うやり方が、発展を続ける経済の求めに応じて変化してきました。過去二十年の間で、女性は、重労働で低賃金の職場で働く労働者の過半数を占めるようになりました。多国籍企業はこうした女性たち、とくに「南」の女性たちを搾取しつづけて、巨額の利益を得てきました。

性差別のすべての形態が有害である

異なる国々や社会における性差別を比較したり、「格づけ」したりするのはまちがった行動であり、性差別に対抗するためのより効果的な活動を生むことはありません。もちろん女子であるために殺されることと、女子であるために低く見られることとは大きく異なりますが、性差別の形態を比べるのではなく、あらゆる性差別の形態をなくすことに私たちの関心を向けることが大切です。女性によっては、性差別のある種の形態が自分に向けられていないことを幸運に思うことがあるかもしれません。これは理解できません。しかし、それを理由に優位に感じることは無意味です。性差別のすべての形態が、そこから生まれる傷の記憶と同様に、すべての人に害

をおよぼします。

「北」の国々の政府は、「南」の国々に対する軍事および政治や経済面での人種差別的政策を正当化するために、各種の性差別を比較し、格づけしてきました。「南」の国々には、女性の利益と支援につながる政策を推しすすめてきた政府（インド、南アフリカ共和国、中国など）もありますが、こうしたことは「北」ではほとんど周知されていません。

植民地主義と国の解放にむけた闘い

女性の大多数が経済的に発展途上の国々に暮らしています。他国の植民地であったり、大国の経済および政治的支配（新植民地主義）を受ける国であったりします。そこに住む女性の全般的な問題と社会的・文化的性差にかかわる問題はともに、国家としての闘いに深く影響を受けます。

すべての人とすべての女性を解放する

女性の、そしてすべての人の解放にむけて、私たちは以下のことを実践する必要があります。

犠牲者としてふるまうことをやめる

以下を実践することによって、犠牲者としてふるまうことをやめます

- ・性差別がどのような形で私たちの人生に影響をあたえてきたかを認識する
- ・犠牲者のようにふるまうのをやめ、自分の人生に完全に責任をもつと決める
- ・集団として、女性のために闘うと決断する。男性が集団としてその態度を変えることや社会が自然に変化することを待つてはいられない。私たちは外からの抑圧と内からの抑圧から自由になるために主導権を発揮してい

く。

・子ども時代に組織的に埋めこまれた無力感という感情をディスチャージする。私たちは互いに助けあって力を取りもどし、私たちと、そして世界の解放にむけた闘いのリーダーとしてふさわしい位置を獲得する。

性差別の廃絶にむけた闘いに男性を迎えいれ、男性の抑圧に立ちむかう

男性は本来私たちの仲間です。性差別を廃絶していく仲間として完全に迎えいれられるべき人たちです。

男性を「敵」として見なしているかぎり、私たちは完全なる人間性を手にいれることができません。男性の性差別主義者的行動やまちがった態度や考えは、私たちの社会がそうするように男性に強制したものです。男性は女性の抑圧に使われる道具であり、抑圧者ではありません。性差別は男性と女性を互いに分断します。私たちはこれを認めません。そして、男女が互いにいたわりあい、自然で親密な仲間となる未来を希求します。

男性への抑圧と闘うことは、男性を、私たち女性の同志として受けいれる行動の一つです。

抑圧は集団と集団とを対立させることによって機能します。女性のなかには、再刺激に取りくむために一時的に男性から離れる必要のある人もいられるかもしれません。しかし一方で、長期にわたって距離を置き続けると、結局は抑圧を受けいれることとなります。互いを敵と見なし、敵として扱うことは、抑圧制度を存続させることになるのです。

性差別を終わらせるには両性が必要です。女性だけでは成しえませんが、私たちは女性解放にむけた闘いの主導権をとるだけでなく、男性を導くリーダーシップを発揮する必要があります。女性が男性との関係で対等な力

を得るために闘うことが、女性の人生にとっても男性の人生にとっても不可欠です。

部分改正⁹に満足せずに、即時変革のために団結する

すべての女性が、現在直面する性差別の問題に関心を向け、女性たちの問題について女性が声をあげて、自らを教育し、変革にむけて組織的に団結するよう促すことができます。女性の各コミュニティで公開討論集会を開き、それぞれの女性が性差別によってどのような影響をうけてきたかを見ていく場を私たちは提供します。

性差別は多種多様に女性の生活に影響を及ぼしてきました。具体的には、暴力、強姦、不完全就業（過小完全雇用）、男性とくらべ女性を経済的に不利な立場に追いやる低所得、危険な労働環境、劣悪な保健医療、強制不妊治療、不満足な避妊法、避妊をはじめとする医療情報の欠如、乏しい運動施設や教育施設、粗末な保育施設、高齢者とシングルマザーやシングルファザーへの不十分な支援、女性に対する法制度上の制限、女性の性的役割にかんする不当な決めつけなどを通してです。

世界規模で起きている女性の問題に対して組織的に団結する

グローバル資本主義がその勢力をのばすにつれ、ますます際立ってきた課題がいくつかあります。女性の性的人身売買、女性に対する戦時犯罪、ポルノ、貧困の女性化、美容産業の拡大、女性労働市場の国際的再編、女性の文盲などです。こうした課題に取りくむ際には、世界規模で女性をまとめあげる方法を見いださなければなりません。

十分に考えぬかれた行動計画を作成する

女性を取りまく諸問題のなかには、なかなか解決できない難しい矛盾を

⁹ 部分改正 (piecemeal reforms.) ばらばらに少しずつ、もしくは断片的に行われる改革。

はらむものがあります。たとえば、女性は妊娠を終わらせる権利をもつべきですが、私たちの多くは胎児を人間の生命と考えます。また、ポルノは問題にされるべきですが、理性的な表現の自由を奪ったり、不必要な検閲を行ったりすることは避けるべきです。女性は自分の子どもを産む権利をもっていますが、新たな生殖技術には倫理的な問題があります。また、望まれない子どもは（とくに経済的「南」では）抑圧的な養子縁組の慣習に利用されるかもしれません。

こうした矛盾を解決するためには、十分に考えぬかれた行動計画と、性差別を終わらせすべての女性を解放するための強固な国際的女性運動が必要です。いわゆる民主的といわれる社会のなかで、女性の解放が「個人」の自由と同一視される場合、混乱してはいけません。個々の政府と政治制度が、それぞれ違った方法で女性を抑圧します。中国における一人っ子政策は、米国で安全な避妊法がないことと比べて、より抑圧的であるとばかりりません。すべての国のすべての女性にとって役だつような行動計画が求められます。

長期目標にむけて取りくむ

すべての女性が敬意をもって扱われ、十分な教育を受け、体を鍛えることを推奨され、自分の生活と体を管理することのできる社会の実現にむかって、私たちは取りくみます。目標とする社会では、出産や子育てに完全な支援があり、すべての職業に女性が参画し、「伝統的な役割」は男女双方によって完全に分担されます。愛と好意が気軽に表され、生涯にわたる深いかわりあいが普通になります。すべての女性が女性として絆で結ばれます。

現在のあらゆる取りくみを活用して、（１）女性を教育し組織化する
（２）よく考え、ディスチャージし、生活のなかで力を得ていくゆとりを女性に与えることができます。しかし同時に、私たちはつい小さく断片的

な前進で満足してしまいがちです。抑圧社会は完全なる目標達成をあきらめさせようとするでしょう。小さな前進から得られる「満足感」の代償として大きな妥協を強いてくるでしょう。

私たちは即時変革のための取りくみを活用して、長期目標の実現にむけた取りくみをよりよく理解し、変革に向けた包括的プログラムを展開し、私たちの組織を強化し、そしてさらに大きく広く団結して行動していきます。

実際社会では、ほとんどの女性運動がやむを得ず部分的な改正に甘んじてきました。そしてこれら部分改正で得たもの、たとえばアフーマティブ・アクション¹⁰あるいは妊娠中絶の権利などでさえ、つねに攻撃に対する擁護が必要でした。私たちは、性差別が深くはびこり、それが当然のように思われている（広義の）制度を変えていく行動計画の必要性を承知しています。とくに抑圧的な要素が組みこまれた「制度」（生殖や結婚、子育て、仕事や職場、性産業、美容産業など）もあります。ほかにも抑圧的な役割をはたしている制度として、消費主義、教育制度、健康保険制度、「精神医療」制度、政治制度、宗教などがあります。また、女性に対する暴力や性搾取、社会的・文化的性差に基づく抑圧など、性差別主義的抑圧の構造も廃絶しなければなりません。

社会を変革する

性差別を廃絶するためには、この抑圧的社会を理性的社会へと作り変えなければなりません。唯一この方法によってのみ、すべての子どもが十分な保育を受けられ、女性に対する暴力をなくするのが可能になります。理性的な子育てを達成するには、男女双方の仕事の再構築が必要です。女性に対する暴力は抑圧的社会に存在する暴力全般の一要素です。つまり、女性

¹⁰ アフーマティブ・アクション（affirmative action） 被差別集団の雇用および教育機会の改善にむけて法と政策・制度の整備を図るもの。

に対する暴力を終わらせるためには、軍隊における暴力をもふくめ、社会全般の暴力をなくさなくてはなりません。私たちはきわだった性差別が登場するたびに闘い続けていきますが、永続的で完全な変革のためにはすべての抑圧と闘う必要があります。それが抑圧的社会を理性的社会に変えるということです。

女性はこの社会で多数派であり続けます。私たちは世界で最も大きな被抑圧者集団の一つで、男性をのぞくすべての被抑圧者集団に重複して属しています。私たちは女性として抑圧されてきたにもかかわらず、人とつながるといふ社会関係の大切さを十分に理解し、ディスチャージをより活用してきたことなど、人間性への窓を閉ざすことなく生きてきました。この窓は基本的社会変革とそれを理性的に希求する力という点において、私たちに重要な展望を示してくれます。国際女性運動は、各種限界や困難があったにもかかわらず、過去数十年ですばらしい国際的なネットワークを構築しました。このネットワークは、そのつながりの広域性と親密度において、ほかのどの被抑圧者集団よりも勝っています。女性は社会変換の主導的役割を担うにふさわしい位置を占め、その重要な役割にかかんに挑みま

(原文：プレゼント・タイム138号、ページ27-34)

性差別廃絶にむけた行動計画の草案

行動計画は政策と異なります。行動計画とは、政策に即して生まれる具体的な行動のことです。以下に、主に女性を抑圧の「標的」にしている6つの制度と、性差別主義的抑圧における3つの重要な「構造」を選びました。ほかに重要な制度も挙げていますが、最初に言及した6つの制度と3つの構造に重点を置いてください。

私たちは女性を標的にしている制度と構造にかんして、現状とその現状に至った過程とともに、不条理のない未来社会への展望について記述しました。重複を避けるため、「性差別と内面化された性差別がなければ、どの女性も妥協せずに完全にすべてのものを手にいれられるだろう」という文言を、各「展望」の項目の中に書き加えませんでした（書いたとしても適切でしたが）。

ここでは、戦略について提案していません。女性たちには、会議の前に討論の場やディスチャージのための集まりを開き、1)各制度上で、人種と性別がどうかかわりあっているのかについて十分に考え、2)性差別のない制度はどのような姿であるかという展望にそって、各制度を変革する戦略を発展させてほしいと思います（「人間としての男性：男性解放政策の草案」¹¹に戦略の参考となる具体例が掲載されています）。

再評価カウンセリングコミュニティ内のすべての女性が会議に参加するわけではありませんが、コミュニティ内すべての女性が各地域で、上記の1)と2)の目標を中心にすえた活動に参画するよう願っています。

¹¹ *The Human Male: A Men's Liberation Draft Policy*

では、次に制度と「構造」について見ていきます。

主な性差別の制度

- 1、経済と仕事
- 2、生殖をとりまく制度
- 3、子育て
- 4、美容「産業」
- 5、結婚
- 6、性「産業」

主な性差別の「構造」

- 1、内面化された抑圧
- 2、女性に対する暴力
- 3、性行動（性交渉）と性被害

経済と仕事

展望

抑圧のない未来では、世界の資源は均等に分配され、女性は生産、再生産、消費において思慮深く責任ある行動をとります。すべての仕事が評価され、人類の生存と繁栄に貢献します。すべての女性がその能力によって貢献し、必要とする公平な報酬を受けとります。

現状

階級社会はあらゆる不平等を促進します。性差別に基づく経済的不平等は既知のほとんどの階級社会で存在してきました。ほかのあらゆる抑圧と同様に、女性の抑圧の根源は経済的搾取です。女性の労働によって生みだされたものが、社会の支配者階級によって取りあげられます。すべての女性は出産や育児という無償労働を求められます。この二つの無償労働は、階級社会の初期段階から女性を抑圧し、女性の労力をさらに

搾取するための口実として活用されてきました。

今日、世界の女性の大多数が貧しい環境で育ち、生涯を通じて貧しいままです。貧困層に属する成人の大多数は女性です（「貧困の女性化」）。女性は世界人口の51%を占め、その労働時間は全世界の労働時間の3分の2を占めます。女性は世界総収入の10%を受けとり、世界資産の1%以下を所有します。経済のグローバル化と世界の労働供給の再編成がこの傾向に拍車をかけ、労働力を開拓するために性差別が使われています。

成人女性のほとんどが2つの仕事をもっています。経済的「北」の女性は、家庭では無報酬で働き、賃金労働市場では男性より低い賃金で評価の低い仕事に従事しています。経済的「南」の女性のほとんどが、家庭内で無報酬の母親であり労働者です。さらにこうした地域では、農作業従事者と低賃金の日雇い労働者の大半が女性です。

生殖をとりまく制度

展望

歴史上ほとんどの場面で、人類は人間という種族が絶滅しないように努力しなければなりません。出産（生殖）は人類の衰退を防ぐための防御手段でした。将来、新たな状況下では、一部の女性と一部の男性だけが新しい人間生命をこの世に送りだし、しかもその生殖は、より多くの人が必要とされ、かつそのことによって地球の健全な状態が壊されることがないと判断された場合にのみ行われるようになるでしょう。過剰な人口増加をとめるために、出生児数を抑えることが必要かもしれません。すべての子どもに、十分な成長のための豊富な物資と情緒的発達を支える人的・物質的資源がいきわたり、すべての女性（と男性）は若い人たちと大切な関係を築きます。（「子育て」の項目を参照）。生殖に

おける男女の役割の違いによって、女性あるいは男性の人生が不条理に方向づけられることはありません。

現状

子どもを産むという女性の能力は貴重で重要な機能であり、人類の存続に必要不可欠なものでした。階級社会の出現とともに、女性のこの能力は女性を抑圧し服従させるための口実となりました。出産を担う女性の役割のいかなる面も女性の抑圧を正当化しえません。出産するという生殖機能にからんで、ひどい抑圧がこれまでもそして現在も続いています。受胎から出産まで、女性は不十分な栄養や低水準の医療といった数多くの不必要な苦しみを経験します。

女性同様、子どもはたいてい、成人男性の所有物として扱われます。所有者階級の女性の子どもは将来の「所有者」に指定され、所有者階級以外の女性は新たな労働力を世界に供給します。女性は子どものために自由に自分の夢を追求すること、あるいは、自分の子どもに夢を追い求めるよう励ますことができませんでした。実際には、この抑圧社会の目標にむかって突き進むよう強いられてきたのです。

今日、経済的「北」では、女性が出産と育児に費やす時間の割合が以前より減ってきています。避妊が普及したことによるもので、出産する子どもの数が減り、家庭外で活動する機会が増え、女性はより長生きするようになりました。生殖はもはや以前ほど、女性の価値を決定づけるものではなくなりました。

経済的「北」のほとんどの地域で、女性には子どもをもつか否かを「選択する権利」がある、ということが一般に受けいれられています（けれども、ディスチャージがまったくない状態では、女性がこの分野で自由に選択しようとする力を女性差別が大きく妨害してきました）。この選択

権のおかげで、避妊ができ、大多数の人が中絶を選ぶ女性の権利を擁護しています¹²。かならずしも実践されているわけではありませんが、家庭外での子育てもまた、受けいれられている考え方です。

経済的「南」（中国は例外）では、まだほとんどの女性が長い年月を生殖と子育てに費やしています。いまだに、生殖と過剰な人口は、貧困、人種差別、性差別と密接に関連しあっています。女性は妊娠と出産にからむ健康上の深刻な問題に直面しています。

世界のほとんどの地域で女性は出産と育児をこなすよう期待されます。子どもを産まない人生の選択もあるという提言は、急進的であると見なされます。生殖について新たな視点から問題提起しようとする考え方は、まだ広く受けいれられていません。女性はよく、自分自身にとって最良ではない決断をします。女性は人生のあらゆる面を新たな切り口から考える機会が必要です。崩壊しつつある現代社会で、生殖にかんして理性的な判断を下そうとすると、個別的な女性の要求の実現とともに、全体として何が女性解放や人類の幸福を推し進めるかについても重視すべきです。

避妊

完全に安全で信頼に足る避妊方法はまだありません。多くの女性が自分の性生活を理性的に考えることをいまだ困難に感じていると同様に、これまでは女性が自分自身のために考え、避妊に責任をとることが妨げられてきました。

中絶

出生前の記憶など、人生の初期段階についてディスチャージを使って

¹² ただし、アメリカ合衆国では中絶反対をうったえる強力な運動もおきています。

取りくんでみると、胎児は命ある人間で、妊娠中絶はその命を奪う行為であることがよくわかります。同時に、女性は意図に反して妊娠することがあります。それは、強姦、近親相姦、脅迫、性的に活発であるように促される社会からの抑圧、母親になるよう求める抑圧、避妊の失敗、女性に十分に考えさせず責任ももたせないという女性差別に起因する障壁などの要因によって起きます。こうした要因のすべてが女性に影響を及ぼさなくなるまでは、中絶は実行可能な選択肢であるべきです。しかし目標はあくまでも、性差別を終わらせることによって中絶の必要性をなくすことであり、母親になるかどうか、母親になるとしたらいつか、を女性が決められるように手助けすることにあります。

私たちは、女性が積極的に性行動をとることや母親になることを計画している場合に、感情解放の手順（ディスチャージ・プロセス）¹³を踏まえて考えるよう女性に働きかけることができます。

身体障害と生殖

ときには、子どもが「完全」であることを望む親もいます。出生前検査によって障害をもった胎児を見わけ、中絶することも可能です。人間はすべてかけがえのない存在である、とする私たちの考えに反することですが、障がいのある子は望ましくないと考えられています。こうした考え方は、障害の有無に関係なく、自分が完全に受け入れられるべき存在であるという認識を土台から揺さぶります。既定基準に則して子どもを生み育てていこうとせずに、すべての若い人たちを受け入れていく必要があります。障がいのある子をもつ親には、彼らの必要性にみあった援助を提供していく必要があります。

¹³訳注：ディスチャージ・プロセス（discharge process） 感情の解放によって、つまりディスチャージによって傷を取りのぞき、人間の本質に立ちかえて自分の力と体験を再評価し、再生していく、という感情解放の手順、また、再評価・再生に至る感情解放の過程を指す。

出産

女性にとって好都合な全般的社会進展のほか、技術と医療の進歩は、一部の女性（と子ども）に出産面で実質的な利益をもたらしました。たとえば、経済的「北」では妊婦と胎児の死亡率が低下しています。残念なことに、経済的「南」では死亡率は引き続き高いままで推移しています。

出産について長く受けつがれてきた女性の知識はたいていがないがしろにされ、細かな配慮がない医療制度に取って代わられました。

生殖技術

試験管内受精のような新しい生殖技術は、女性が性交せずに妊娠することを可能にしました。大部分の女性にとってあまりにも高価な選択肢ですが、妊娠が可能であるにもかかわらず性差別の影響で性交が困難であった女性も子どもをもつことができます。新しい生殖技術は役にたつ可能性がありますが、出産を期待する圧力を一部の女性に加えつづけます。こうした圧力を受ける女性にとっては、妊娠もしくは性交ができないことを嘆く機会が与えられる代わりに、広く医療処置を施される対象者になっていることを意味するかもしれません。

新しい生殖技術のなかには、検討しなければならない倫理上の問題をはらむものもあります。

子育て

展望

私たちは、最高の子育てをすることができ、子育てという労働が高く評価され、すべての人が子どもの価値を認め養育に責任がもてる社会を

思い描いています。子育ての担い手に対し、経済面、社会面、感情面で十分な援助が与えられ、子育ては十分に報われるものとなります。子育てはどちらか一方の性に限定されるものではありません。女性、男性、生物学上の親、そうでない親、そして幅広い年齢層の人たちから成る、しっかり統率されたチームが、特定の子どもに深くかかわります（このチームが、子どもにとっての「家族」あるいは「家庭」構造とどのように調和して機能するか、またチーム構成員どうしの関係はどうなるかなど、細かな点について私たちはまだ見極めていません。しかしながら、すべての子どもと彼らにかかわる大人に、親密で十二分な人的資源があるというのが理想の姿で、私たちはこれを追い求めます）。

現状

階級社会では、女性はずねに子育て全般の責任をもたされてきました。奴隷社会、封建社会、資本主義社会の初期段階において、女性が子どもを育て、男性が女性と子どもを所有していました。

母親は社会から女性として抑圧され、さらに親としても抑圧されています。女性の仕事はたいへん価値あるものですが、どんなところでもたいてい低い評価を受けます。親は息つく間がほとんどないかしくはまったくない24時間労働を無償で行う、というのが「原理原則」として受け入れられています。一般に親は、子育てという労働において、ほとんど助けがないために孤立しています。階級社会では一般的に、母親が子育て労働の大半を担っています。

生殖における女性の生物学的役割（妊娠、出産、養育）は女性を抑圧する最大の口実として使用されてきました。若い人を育てることは、社会で最も重要なことの一つです。しかし、この抑圧的な状況下では、育児が女性の人生をひどく制限してきました。母親は女性の抑圧の深さを経験します。母親は育児の主要で、唯一の、無報酬の担い手で、この母

親の仕事を多くの女性が期待され、いまだにそれが多くの女性の人生を規定しています。経済的「北」において、こうした期待が表れているごく最近の例は「母性崇拜」や「家事礼賛」です。「選択の権利」が一般に受けいれられている地域でさえ、女性はいまだに母親になることを期待され、奨励されています。そして一度どちらかの道を選択すると、母親になった女性もそうならなかった女性も、ともにその選択によって不利な立場に置かれます。

経済的「南」では女性はいくつもの子どもをもつ母親であり、多くは農作業か工場労働、あるいは別の形の賃金労働をしています。

この抑圧的な状況下でも、子育てはそこにかかわる大人にとって喜びに満ちたものになりえます。ほかの形態の仕事において搾取があるとしても、子育てという仕事は最も意味ある仕事の一つであり、しばしばそのように感じます。子育ての「見返り（報酬）」として言及されるものの中には、見せかけもあれば、真実のものもあります。

美容「産業」

展望

性差別がなければ、美容「産業」は存在しないでしょう。美容産業によって「強化」されなくとも、すべての女性が（人間的意味で）かけがえのない美しさをもっていることに人は気づきます。人はみな、それが自分の好みに合わせたものであったり、まわりの状況に合っていたりする場合に、自由に着飾ったり、または着飾らなかつたりします。その理由は、伝統のため、芸術のため、流行のため、舞台に立つため、祝福するため、注目をひくため、楽しむため、意思疎通をはかるため、ディスプレイのため、などさまざまです。年齢で人を差別することや美しさ

を競いあうことを終わらせる方法がわかるようになります。すべての人が健全な環境、栄養豊富な食材、そして活力と健康を育むあらゆるものを手にします。

現状

私たちの知る文化の大半は、女性の外見・容姿に基づき、思慮のない凍りついた態度で女性を評価し分類するパターンをもっています。女性の外見に基づくこの種の「魅力」によって、女性の価値と適切性が判断されます。女性の性的魅力はおうおうにして、元気で健康な子どもを産むだろうと推測される外見に基づいています。また、女性の若々しさがこの魅力ある外見に含まれることもあります。これは、青年期における男性の孤立と結びついています。たとえば、人の注目がほしいという男性の凍りついた欲求を喜んで「満たして」くれそうな女性の外見は、こうした魅力のもう一つの側面です。女性、なかでも裕福な階級の女性はよく、男性の「お飾り」と考えられてきました。女性の服装と容姿が「主人」の威信を高めていたかもしれません。纏足(てんそく)、コルセット、ハイヒール、美容整形手術はすべて人体に有害であり、女性に従属的外見を与えがちで、しかも女性に傷の記憶を植えつけてきました。

資本主義社会の現段階では、女性に美容製品とサービスを売りつけて得られる利益がひたすら増大しています。何千億円規模の美容「産業」が性差別を押しつけています。美容産業は、女性があるがままの自己や他者の目にうつる自己を悪く思うように巧みに女性を操っています。美容産業は女性の美の「理想」像を広め、こうした理想像に近づけると称して商品を販売します。偽りの理想像が存在し、それが宣伝されていることが、すべての女性を抑圧しています。現在の技術によって、こうした美容産業の主張が世界中に広められます。技術的に美の理想像をデジタル操作することが可能になったために、傷とコンピューターグラフィックは理想の「美しさ」を作りだし、女性はみな、その「美しさ」に合

わせなければならぬという圧力にさらされています。

美容産業によって「生産」され、推奨されてきた非理性的な願望を満たすことは不可能です。とくに、それが美容産業によって満たされることはありません。しかし、女性は凍りついた絶望感のせいで商品を買いつづけ、これによって美容産業は大きな利益を得ています。「人」と「パターン」を区別するという私たちの考え方がここでの指針になります。女性の本当の美しさは、パターンから自由になったときに現れます。たとえば、女性の注目が完全に傷からそらされているときや、激しく泣いたり笑ったりしているときなどがそうです。そのとき、人はたいへん魅力的でしょう。傷のパターンのみが、私には魅力がない、と感じさせ、もしくは一時的にそう見せかけるのです。ディスチャージは、本来の人間の美しさを一時的に隠してしまう傷から女性を解放します。

大部分の人がほとんどの場合、パターンを身にまとっています。社会基準に照らせば、あるパターンは美しく、あるパターンは美しくない、ということになります。しかし、見る人が見れば、どのパターンもすべて美しくありません。また、見る人自身がパターンをもっていると、そのパターンのせいで、見た女性を美しいと感じることができません。無数の社会集団を「魅力が劣る」と見なす抑圧の力が、こうしたパターンを育てています。

美容産業はあやまった美の基準を設け、美容製品やサービスによってその美を手に入れられると宣伝し、こうしている間に莫大な利益を手にかけています。くわえて、美容産業は、「今とは違う自分になりたい」という女性のパターン化した願望を満足させると称して、利益をえてもいません。

結婚

展望

性差別がなければ、結婚は所有性や自動的な排他性をそなえる制度ではなくなるでしょう。かわりに、互いの協力や尊重や愛に基づいて、強制的な行動のない、永遠で、固く結びついた、互いに深くかかわりあうさまざまな形の関係（具体的な形はまだ現れていませんが）を築いていきます。人がすべての人に対して抱く自然の愛は、人の活躍を互いに支えあう豊かな地域援助も含めて、数限りない形で表現されるでしょう。自分の要望をすべて満たす一個の「完璧」な関係を見つけなければならない、という圧力はなくなります（理性的社会の性的関係の役割については、今のところ、その性的関係は理性的である、というくらいにしか言えません）。

移行期の展望

現代社会では、ほとんどの大人が結婚しています。女性の抑圧を考えると、結婚することが女性の利益となることもありえます。個々の機能と関係の集合体として結婚をとらえるならば、これは理解できます。結婚とは、たとえば共同生活、財布の共有、家事労働の分担、子育て、一緒に寝ること、性交渉、一緒に遊ぶこと、健康保険の保証などを含めた総体なのです。

結婚によって得られるこうした個々の関係について、そのなかにある利点から抑圧的性質を選びわけていくよう妻たちに働きかける必要があります。たとえば、体のふれあい（クローズネス）¹⁴は理性的で役にたちますが、人への近づき方は数多くあるにもかかわらず、人に近づく際の方法をクローズネスに限定しようとするパターンがあるとそれは抑圧的

¹⁴ 訳注：クローズネス（closeness） 手を握る、抱きしめる、頬を寄せあう、キスする、抱きあうなど、人と人が身体的に親密に触れあう行為。以降、クローズネスと表記。

になりかねません。このようなパターンは問題にしなければなりません。女性は意思決定の際に対等でない力関係や家庭内の仕事分担の不公平さなど、婚姻関係のなかにあるいかなる不平等にも立ちむかっていくべきです。抑圧のない社会に移行するにつれて、「結婚」（のよい部分）は、永遠のつながりが可能となる結びつきの一形態として、その居場所を見つげるかもしれません。結婚の利点は、一緒に話したり、ふれあったり、食事をしたり、性交渉をもったり、あるいは性交渉についてディスチャージしたりする相手が身近にいることや、さらに健康的になれること、互いに助けあい愛しあえること、などが挙げられます。婚姻関係に対する誓約は、何か事業をやろうと決意するときのように、人を成長させるよい機会となりえます。結婚の一部である夫婦間の誓約は、二人がづらいことを経験しているようなときに、互いにそばに居つづける支えになります。

どの種の関係にも、まわりからの思慮深い支援が欠かせません。それぞれの関係において、女性は積極的で自覚的な役割をはたす必要があります。

現状

階級社会の初期段階では、夫が妻を所有していました。ヨーロッパで結婚制度が進化するにつれて、結婚した男女は法で定められた統一体になりました。その存在は、法律上は「一個の人間」であり、その人格は男性でした。女性は自立した人格として存在しなかったのです。

男性にとっても女性にとっても、結婚は一連の仕事とこうした仕事を当然行うであろうという期待から成りたっていました。妻は夫につかえ、子どもを育て、家のなかの仕事をするよう求められました。夫には性交渉の権利がありました。社会は婚姻関係の下で行われる強姦や暴力を罰

しませんでした。強姦も暴力も珍しいことではありませんでした。それは現在も変わりません。

経済的「北」と一部の経済的「南」では、女性運動など女性の社会的な力や経済力によって、結婚がもつ抑圧的側面がかなり弱められています。しかし、まるで法律や社会の変革が何も起こらなかったかのように、「夫」と「妻」という概念に付随する傷のパターンは残されたままです。妻たちは働いても夫より低い報酬しか得られず、家では無償労働者であり続けているために、婚姻制度のなかで対等な立場を得ようと奮闘しています。

経済的「南」に属する多くの国で、結婚はいまだ半封建的家父長制に結びつき、女性は所有物として扱われ、その家父長制の支配力を強化するために暴力が使われています。こうした状況の下では、結婚の「庇護」なしで女性が生きていくのは難しいことです。

性産業

展望

理性的社会は性「産業」をなくしていくでしょう。理性的社会は、性産業に従事することがどの女性にとってももうかる確実な方法であるように見せかける、経済的搾取と性的虐待をなくしていきます。(性産業は人の傷に依存していますが、理性的社会はこうした傷を生みだす若い少年の孤独や虐待や疎外をなくします。)

現状

性産業には売春(女性の国際的な人身売買もその一部)、「ストリップ」、ポルノ映画や出版物、ポルノサイト、有料テレフォンセックスなど、性的な傷を再刺激して利益を得るさまざまな商売があります。商品売る

ために、娯楽産業や広告業界も、性交渉に対する社会の傷まみれの強い関心につけこみます。私たちの社会は有益な情報を与えるのではなく、むしろ私たちの傷を操るために、性的関心を利用しているのです。

歴史的に女性は男性の所有物であり、性交渉に対する男性の様式化（パターン化）した態度を女性は受けいれざるをえませんでした。妻や売春婦、慰安婦として利用される女性はほぼつねに存在してきました。多くの妻たちも同じように性的に隷属させられてきました。

今日、発展した資本主義では、女性の性的対象物化が新たな極限に達しています。何千億円規模の業界が男性の傷（男性ほどではないのですが、女性の傷をも）操っているため、性産業の利益は急上昇しました。性産業の抑圧のために、親密感やふれあいを得られる唯一の手段は性産業が提供するような強制的性交渉しかない、と男性が思うほどに、男性はクローズネスを奪われてきました。

性産業は女性と男性の双方から人間性を奪い、自分は価値ある存在でよい人である、と思う感覚を傷つけます。また、男女の関係にも害を与えます。男女が、本当のクローズネスを含め、解放と理性的な行動を追求することを阻みます。性産業は性暴力を助長します。

主な性差別構造の解説

内面化した抑圧

展望

抑圧のない社会では、すべての女性が完全で価値ある人間であることが理解されます。女性どうしの関係は本来、いたわりあい、協力しあい、女性一人ひとりの完全な人間性を讃えあうものであることが理解されるでしょう。

現状

外部からの抑圧の結果として生じた傷の記憶は、抑圧の被害者をその抑圧に服従させる「強制力」として機能します。抑圧的なことが今現在おきているか否かにかかわらず、この力が働きます。女性の抑圧によって、経済的搾取と、傷の記憶をたえず補強する力が結びつきます。内面化された抑圧、と私たちが定義する傷の記憶、つまり組織的に行われる不当な扱いや不当評価が原因でもたらされる感情と態度は、すべての女性に刷りこまれています。

女性は内面化された抑圧からくる傷の記憶を自己とほかの女性たちにむけ、さらに男性との関係のなかで再演します。

内面化された抑圧は強力に作用します。ときには、外部からの抑圧よりもさらに強く作用します。とくに、経済的「北」（ここでの性差別は多くの場合、経済的「南」の国々ほどあからさまではありません）の女性は、実際より解放されているかのように思いこまされています。女性の抑圧では、ごまかしや誤った情報が大きな役割をはたしています。

女性は変革をもたらす大きな力です。70年代からほぼ80年代にかけて、女性は世界規模で根本的な変革を求める新興勢力でした。1995年に中国で行われた第4回世界女性会議は、その力が潜在的にそこにあることを示しました。しかし、変革を求める女性たちにとって、内面化された抑圧は大きな障害となっています。たとえば、女性のなかでもとくに傷ついている集団は、ほかの女性たちと団結したり、助けあったり、互いのために主張したりしようとしません。女性は互いに共通する抑圧に対して共闘するのではなく、むしろほかの女性集団に対して抑圧的になりがちです。内面化された抑圧、とくに内面化された抑圧が女性集団のなかにもたらした分裂は、女性解放運動（フェミニズム）に対して組織的に加えられる攻撃とともに、変革を求める女性の活動をじゃましてきました。内面化された抑圧のせいで、女性は重要な問題について

合意をえたり、必要な関係を築いたり、女性のために主張したりすることができてこなかったのです。

人種差別は女性を分断する大きな隔壁です。それは内面化された抑圧と連動して現れます。人種差別は個人間レベルでも、集団間レベルでも作用します。とくに、経済的「北」の女性集団が、経済的「南」の女性にとっての利益は同じ女性である自分たちにとっての共通利益であることを理解し、そのように行動するのを阻みます。

内面化された抑圧の一つに、「自己認識観」の内面化があります。「女性」や「女の子」や「女」や「特定の性的志向がある女性」というのは、私たちの社会によって規定された自己認識観です。こうした自己認識観はこり固まっていて、限定的です。自己認識は抑圧によって与えられたか、もしくは抑圧に反応して取りこまれたものです。こうした自己認識観は人間本来のものではありません。事実、「女性性」は単なる生物学的事実にすぎません。人間の特質という点で、女性を男性から区別するものではありません。私たちは本来、性別にとらわれずにあらゆる人間と愛しあう（強制的でない）関係を築く固有の権利をもっています。抑圧的社会は、人々を分断し抑制するために、さほど重要でない違いをことさら拡大させて示すのです。

女性に対する暴力

展望

理性的世界には、あらゆる暴力と暴力を引きおこす傷と抑圧がありません。女性も少女も、だれと一緒にいても安心して安全でいられるでしょう。だれもがそうであるように、女性は自由に行きたい場所に行き、楽しみ、そこで暮らすでしょう。

現状

世界的に、暴力はすべての被抑圧集団に行われる主要な抑圧手段です。暴力の形態はそれぞれの抑圧ごとに異なります。女性に対する暴力は通常、個人レベルで行われます。多くの女性がしばしば自宅で、父親、兄弟、夫、恋人からの身体的な暴力にさらされています。身体的虐待とともに、精神的虐待の対象にもなっています。おそらく、大半の女性が精神的かつ身体的暴力の恐怖にさらされながら日々をすごしているでしょう。女性はまた、戦争などの軍事支配の主たる犠牲者でもあります¹⁵。

性暴力とは、性交渉あるいは不必要な性的態度や行動がからむ暴力です。すべての被抑圧者を苦しめる暴力の一形態ですが、主な被害者は女性や若い人です。性暴力は、少女や若い女性、有色女性、レズビアン、高齢の女性などへの抑圧が行われているような状況下で、頻繁に起こります。性暴力は女性を服従させるために利用されてきました。性暴力は家のなかで（近親姦姦、妻と子どもへの虐待、妻への強姦）、街頭で、学校で、職場で、あらゆる場所で起こります。性暴力は、強姦や性的いたずらや性的嫌がらせの形をとります。軍事侵攻はおうおうにして、相手を降伏させる手段として性暴力を利用します。

女性や若い少女がしばしば性暴力の被害者になっていることは、今では一般に認知されています。しかし、若い少年も同じような被害にあっていることはまだそれほど知られていません。性暴力をおかす男性は、少年期に同じような暴力を受けた被害者です。こうした連鎖は、制度化

¹⁵ 戦争（著しく制度化された暴力形態）の「報酬」には、国土の征服だけでなく、女性の征服と「合法的」強姦がつきものでした。平時における軍事占領は民間人に対して抑圧的であり、女性への暴力事件を起こしたり、基地周辺に性産業をはびこらせたりします（昔から、大半の女性は戦争に強く反対してきましたが、そうした反対は、完全な武装放棄や軍備放棄を求める方針のないままに行われてきました。）

された抑圧によって強化されます。つまり、男性の抑圧（軍事訓練、つねに競争し戦うよう求められる圧力、組織的に埋めこまれる強制的な性の記憶など）のせいで、男性は、男性が受けた性的被害を、しかもより「強力」で攻撃的な役になって、再演するのです。女性は攻撃的役回りというより、むしろ性暴力を被害者役として内面化する傾向があります（ただし、女性が、たとえば幼い子どもとの関係で、攻撃的役回りを担うことはあります）。

最初に傷つけられたり抑圧されたりしないかぎり、人はだれもほかの人を傷つけたり抑圧したりしないでしょう。最初に肉体的または精神的にも傷つけられないかぎり、だれも性暴力をふくむ（自己防衛以外の）いかなる暴力行動をもおこさないでしょう。少女や女性が暴力や性的虐待の標的にされることは、彼女たちの人生に破壊的衝撃を与えます。幸いに、その衝撃からゆるやかに、完全回復することは可能です。

性行動（性交渉）と性被害

展望

性差別のない世界では、それぞれの女性に数多くの親密な関係があり、女性はそうしたいと思ったときはいつでも、自分の望みどおりの方法で完全に主導権をとって個々の関係を築きあげていきます。近づきあいたい、触れあいたい、愛しあいたい、という女性の欲求を満たす数多くの方法があります。性交渉は人と近づく楽しい方法だと女性が理解し、人との関係のなかに性交渉をもち込むことが妥当である場合にその方法を選択します（それは心理的な抑制や強迫観念とは無縁です）。性交渉はもはや、女性の大きな関心事ではなくなり、女性の生活や行動を制限するものではなくなるでしょう。

性差別のない社会では、性的に不当な扱いはなくなります。どの女性

(人間)もだれかの性的傷の抑圧的再演による犠牲者になることはありません。そして、どの女性も性行動をとることに単独で責任を負います。

現状

女性の性被害は(性被害についての恐怖とともに)これまで、そして現在も、女性の抑圧の大きな部分を占めてきました。女性を無力にし、服従させる重要な道具です。性的に不当な扱いの形態には、強姦や近親相姦などの性的虐待や嫌がらせがあります。性被害には「社会的に容認されている」関係のなかでの脅迫と強制圧力も含まれます。

幼い頃に生じた傷のために、ほとんどの女性に犠牲者としての傷の記憶があります。こうした傷の記憶は、自分がいまでも犠牲者なのかどうかをわかりにくくさせています。現実にいまでも犠牲者なのに、そうでないと感じる女性があります。一方、もう犠牲者ではないにもかかわらず、いまでも犠牲者であるかのように感じる女性もいます。こうした混乱にくわえて、悪意のない性交渉においてさえ、膨大な性差別が起きています。女性が性的関係のなかに存在する性差別に向きあい取りくむことは、困難なことでした。また、性被害の傷の記憶のせいで、性行動にかぎらず生活の多方面で、完全な主導権をとる力がない受動的犠牲者のように女性は感じます。

人種差別は有色女性を性的搾取の対象にしてきました。性の搾取にはしばしば、貧困や奴隷制度など、人種差別が有色女性にもたらす苦しみがついてまわります。ある特定の有色女性の集団がエキゾチックで、性行動に寛大で、「性的により魅力的」で、従順である、といった固定観念が女性の性被害を助長しています。

実際に行われていることだけでなく、宗教や芸術、文学、大衆メディアに登場するイメージでも、長い間女性は性的な面で辱められてきました。

この数十年、性的に女性の品格を落とすようなイメージが視覚メディア、音楽業界、そして一部職場において（ときには女性解放の名の下に）ますます許容されるようになってきました。

そのほかの制度

冒頭で述べたように、以下に抑圧の制度と構造にかんしては将来的に調査し考えていく予定です。

消費主義

抑圧のない社会では、だれもが消費するに妥当な量だけの食物、飲料、衣料、家財などを消費します。消費を促す宣伝や圧力が人の傷を操作することはなくなるでしょう。あらゆる娯楽は、生きる喜びを増大させ、種族としての人間の知性の高まりを反映したものとなるでしょう。

教育制度

性差別がなければ、教育制度は男女双方の精神が発達し成熟するのに必要なすべてを提供するようになります。人間はこの地球に責任をもち、宇宙全体と知的に交流できる能力を最大限にのばすことができるでしょう。

健康医療制度

理性的な将来において、人には、食糧、住居、健康医療、清潔で安全な環境といった基本材の適切供給が保障されます。女性は、幼少のころから身体的に活発で力強くなります。女性は心と体の両方を気にかけ、大切にしましょう。健康問題に焦点をあてた情報や配慮、ディスチャージ、医療処置が、容易に手にはいります。ディスチャージ・プロセスや人間の解放に深くかかわっていくという決意は、健康医療制度のあら

ゆる側面で浸透しているでしょう。

「精神医療」制度

抑圧のない協同的な社会では、私たちが知るとな「精神医療」制度はなくなり、「精神医療」の抑圧は存在しなくなります。ディスチャージし、再評価し、話を聴きあうことが、社会のあらゆる場面で、そしてあらゆる集団のなかで、行われるでしょう。

政治制度

理性的な社会では、女性は男性とともに協力し合ってリーダーシップをとります。男女が一緒になって組織的に、地球と人間にかかわる決定をくだすでしょう。

宗教

抑圧のない社会では、あらゆる宗教が。歪曲や制限のない人間の力や本来の現実の姿を提示します。あらゆる宗教で、女性は力強い役割を担い、女性として感謝され尊敬されるでしょう。

そのほかの抑圧の構造

男性との関係における性差別

理性的な未来世界では、対等な男女関係がある社会が築かれます。その関係は親密で、思いやりがあり、協力的で、満足しあえるものでしょう。女性は男性とともにリーダーシップをとっていきます。

性的志向

将来社会で、人はみな、すべての人との温かで親密な交流とかかわりを求めます。クローズネスの相手は、一個人、またはある特定の関係に

ある人たちに限定されません。人間の行動は、ある特定の性だけに属するものとして見なされなくなります。女性はいつでもそう望んだときに、女性にも男性にも気軽に近づいていくでしょう。性交渉は親密な関係における重要な部分ではなくなり、性交渉そのものが、強制的で抑制的なあらゆる傷から自由になるでしょう。

同性愛者への抑圧はもはや存在せず、性的志向という概念はなくなるでしょう。それらは抑圧状況のもとから生まれたものです。すべての女性（男性）を固定した性役割に「強制的に」縛りつけようとする同性愛者への抑圧の「目的」は、時代遅れのものになるでしょう。

(原文：シスターズ11号、ページ7-16)

Draft Women's Policy Statement Number Four (from Present Time no. 138) &

Draft Program to Eliminate Sexism (from Sisters no. 11)

International Re-evaluation Counseling Communities

Japanese translation by Ikko Shikembaru

Copyright (c) 2002, 2005 and 2009 by Rational Island Publishers. All rights reserved. No part of this book may be used or reproduced in any manner whatsoever without written permission except in the case of brief quotations embodied in critical articles or reviews.

連絡先

Rational Island Publishers, Inc.

P.O. Box 2081, Main Office Station

Seattle, Washington 98111, USA

Email: ircc@rc.org

Fax: +1-206-284-8429

女性政策声明草案 第4版 (プレゼント・タイム138号より)

及び 性差別廃絶にむけた行動計画の草案 (シスターズ11号より)

再評価カウンセリングの会

翻訳: 志堅原 郁子

この文章の著作権はラショナルアイランド社にあります(翻訳2009年。原文2002年、2005年)。批評や書評への短い引用以外、文書での許可を得ずに、この本を使用・複製することは禁じられています。

ISBN: 978-1-58429-149-7

発行 再評価カウンセリングの会
〒186-0002 東京都国立市東4-3-3
F A X 042-574-7127

定価 円